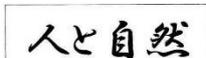




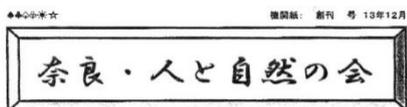
会報誌 200 号の歩み

2001年10月号が創刊であった。9月24日発足時の会員数は、45名とある。現在の会員数は、169名となり16年間で実に4倍になった。



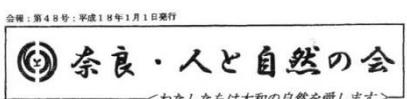
奈良・人と自然の会 機関紙 第1号 2001年10月号

この間、会誌名も2001-10「人と自然」、



2001-12「奈良・人と自然の会」、

2006-1 ロゴマークやキャッチフレーズ登場、



2011-4「ネイチャーなら」

と変遷。題字は有本倍美氏揮毫、



ロゴマークのデザインは寺田正博氏、「ネイチャーなら」のレタリングは鈴木末一氏による。

2010-7から表紙に境 寛氏のペン画、2015-4から写真に替わる。

歴代編集者を調べた。初代：2001-10 甲斐野、2代：2002-6 有本（勝田・小山）、3代：2003-6 勝田（均・緑）ご夫婦で、9年間孤軍奮闘された。編集は印刷された原稿を、切り貼りして構成されており、大変なご苦労であったと思う。4代：2012-4 鈴木（青木、山岡、坂東）からは、編集はWORD、数名の編集チームが活動する体制となった。5代：2015-6 坂東。

200号の会報誌に改めて目を通して見た、会の活動の変化がよく分かる。（HPご覧ください）

初期の活動は、自然観察会と例会（東海自然歩道）が主体である。2003-11「いこま棚田クラブ正式発足」で活動に参加、2004-3「忍辱山国有林森林間伐」開始、2007-6「平城山里山林整備事業」開始（現在のならやまフィールドの始まり）、2009-3「忍辱山国有林森林間伐」終了、「いこま棚田クラブ」での活動終了。

活動の主体は、ならやまフィールドの活動（毎週木曜）、月例研修会、自然観察会となって、現在の姿に移行した。（行々子）

10月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動（木）
10月4日 協働作業の日
- * 自然教室
10月15日（月）秋のならやま自然観察会
- * 月例研修会
10月1～2日（月・火）
一泊研修（飛騨・乗鞍・白川郷）
- * イベント
10月14日（日）朝日親子環境教室（稲刈り）
10月20日（土）芋掘りイベント

表紙写真「ならやまの四季」

ならやまフィールドの四季の姿で、表紙を彩りました。

春：ナバナの収穫

一面の美しいナバナ畑です。右後方には、ヘルメット姿のメンバーが山に向かっていています。

夏：田んぼの草取り

田植えの次は草取りです、秋の収穫を目指し、炎天下の田んぼで、エコファームグループは頑張っています。

秋：ならやまの自転車道

ならやまの秋は美しい、ベースキャンプから東に向かう道に落葉が続きます。

冬：西池の改修工事

前日の降雪で真っ白になった西池で、ビオトープ班は、ニッポンバラタナゴを迎えるために池の改修工事をしました。

会報誌[ネイチャーなら]・第200号

発行：奈良・人と自然の会

URL：<http://www.naranature.com>



編集 Mail：hennsyuu@naranature.com

編集チーム：青木（幸）、青木（芳）、

千載、戸田、山崎、山中、坂東